

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
人間の体のしくみと働き	1年次	前期	1	14/30	間中

授業概要

この教科は一般に、「人体の構造と機能」や「解剖生理学」と呼ばれ、看護学生が人体について学ぶ最初の授業になります。さらには生涯学び返す必要のあるものでもあります。当校では、系統看護学講座「解剖生理学」を教科書として、「人体のしくみとはたらき」15回と「生命の維持」30回の講義を、2名の講師が担当します。

当シラバス担当の間中講師は、前段の「人体のしくみとはたらき」中7回を使って、「細胞から身体へ、その機能」をテーマとしてまとめます。後段の「生命の維持」中15回には「調節機構」の解説に当てています。

本講義の目的は前段後段を総合して

1. 生命の最小単位にあるもの:細胞の構造と機能 2. 遺伝するものしないもの:体細胞系列と生殖細胞系列 3. 臓器機能の主役:上皮、骨、筋、神経などの組織の分化と機能 3. バイタルサインとホメオスタシス 4. ホルモンと自律神経系による支配:情報処理の方法 などの理解ができるよう解説していく(2021/03/01)。

○学習方法:教科書の丁寧な読み込み、用語の理解、用語の反復声出し、用語を使っての会話と作文、図解。
○参考書:教科書の姉妹本:医学書院「解剖生理学ワークブック」
医学生用の参考書 MEDICAL VIEW 集中講義「生理学」
日本医事新報社「人体の正常構造と機能」
○放送大学ビデオ:「人体の構造と機能」教科書著者講義全15回

回	事前学習	授業内容	授業方法
1	教科書p27～p39	1)人体の構造の単位 (1)個体 (2)器官系 (3)器官 (4)組織 (5)細胞 (6)細胞小器官 (7)分子 (8)原子 2)細胞の構造と機能 (1)細胞の構造 (2)細胞構成の物質 (3)エネルギー生成	講義 4/21①
2	教科書p39～p43	3)細胞膜の構造と機能 (1)細胞膜の構造 (2)細胞膜の機能 (3)細胞膜のタンパク質の機能 (4)膜電位と細胞の興奮	講義 4/21②
3	教科書p43～p46	4)細胞の増殖と染色体 (1)細胞周期 (2)染色とゲノム	講義 4/28①
4	教科書p46～p55	5)分化した細胞がつくる組織 (1)上皮組織 (2)筋組織 (3)結合組織 (4)神経組織	講義 4/28②
5	教科書p313～p315	○骨の機能 (1)骨の組織と組成 (2)骨の発生と成長 (3)骨の生理的な機能	講義 5/12①
6	教科書p369～p382	○筋の収縮 1)骨格筋の収縮機構 2)骨格筋収縮の種類と特性 3)不随意筋の収縮の特徴	講義 5/12②
7	教科書p383～p394	○神経系細胞の機能 (1)神経細胞と支持細胞 (2)ニューロンでの興奮の伝導 (3)シナプスでの興奮の伝達 (4)神経系の構造	講義 5/19①
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①		

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
人間の体のしくみと働き	1年次	前期	1	16/30	高橋

授業概要

人間の身体(人体)は、様々な構造が集まり、それぞれが機能することで成り立っている。細胞という小さな構造から、組織、器官という大きな構造のしくみと働きを学ぶ。

回	事前学習	授業内容	授業方法		
1	教科書p8～ p13	体表からみた人体の構造 1)体表から蝕知できる人体の部位 2)体表から蝕知できる骨格部分 3)体表から蝕知できる大きな筋 4)動脈 5)静脈	講義		
2	教科書p17～ p21	構造からみた人体 1)骨格からみた人体の区分(体幹と体肢) (1)体幹(頭部・頸部・胸部・腹部・骨盤部) (2)体肢(上肢・下肢) 2)人体内部の腔所と膜 (1)腔所(頭蓋腔・脊柱管・胸腔・腹腔) (2)膜(上皮性膜・結合組織性膜)	講義		
3	教科書p～22 p27	3)人体の部位と器官 (1)頭部 (2)頸部 (3)胸部 (4)腹部 (5)骨盤部 4)方向と位置を依示す用語	講義		
4	教科書p308～ p318	身体の支持と運動 1)骨 (1)人体の骨格 (2)骨の形態と構造 (3)骨の組織と組成 (4)骨の発生と成長 (5)骨の生理的な機能 2)骨の連結 (1)関節 (2)不動性の連結	講義		
5	教科書p319～ p333	身体の支持と運動 3)骨格筋 (1)骨格筋の構造 (2)骨格筋の作用 (3)骨格筋の神経支配 4)体幹の骨格と筋 (1)脊柱 (2)胸郭 (3)背部の筋 (4)胸部の筋 (5)腹部の筋	講義		
6	教科書p334～ p348	身体の支持と運動 5)上肢の骨格と筋 (1)上肢帯の骨格 (2)自由上肢の骨格 (3)上肢帯の筋群 (4)上腕の筋群 (5)前腕の筋群 (6)手の筋群 (7)上肢の運動	講義		
7	教科書p349～ p361	身体の支持と運動 6)下肢の骨格と筋 (1)下肢帯と骨盤 (2)自由下肢の骨格 (3)下肢帯の筋群 (4)大腿の筋群 (5)下腿の筋 (6)足の筋 (7)下肢の運動	講義		
8	教科書p361～ p369	頭頸部の骨格と筋 1)神経頭蓋(脳頭蓋) 2)内蔵頭蓋 3)頭部の筋 4)頸部の筋	講義		
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。				
教科書	医学書院: 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①				

授業科目 生命維持のしくみ (調節機構) 生理学	開講年次 1年次	開講期 前期	単位数 1	時間数 30	講師 間中
--------------------------------	-------------	-----------	----------	-----------	----------

授業概要

生命を維持するしくみには体内・体外環境を監視し各器官の活動を制御するシステムがある。この役割を担う脳・神経系・内分泌系が生体の成長・成熟・老化の過程においてどのようなことを行うのかを学ぶ。

回	事前学習	授業内容	授業方法
1	教科書p55～ p62	1－解剖生理学を学ぶための基礎知識 生産 1.消化器系 2.呼吸器系 流通 3.循環器系 4.泌尿器系 運動 5.骨格・筋 6.体性神経 成長・成熟・老化 7.生殖器系 防御・調節 8.自律神経 9.内分泌 10.免疫系 ※ ホメオスタシスとは	講義 5/19②
2	教科書p383～ p409	8－情報の受容と処理 A)神経系の構造と機能 ④神経系の構造 B)脊髄と脳 ①脊髄の構造と機能 ②脳の構造と機能	講義 5/26① p383～394を 復習しておく
3	教科書p409～ p418	8－情報の受容と処理 C)脊髄神経と脳神経 ①脊髄神経の構造と機能 ②脳神経の構造と機能	講義 5/26②
4	教科書p418～ p429	8－情報の受容と処理 D)脳の高次機能 ①脳波と睡眠 ②記憶 ③本能行動と情動行動 ④内蔵調節機能 ⑤中枢神経系の障害	講義 6/2①
5	教科書p429～ p435	8－情報の受容と処理 E)運動機能と下行伝導路 ①運動ニューロン ②下行(遠心)伝導路 F)感覚機能と上行伝導路 ①感覚の種類 ②感覚の性質 ③体性感覚の受容器の種類 ④皮膚の感覚受容器の分布 ⑤上行(求心)伝導路	講義 6/2②
6	教科書p435～ p460	8－情報の受容と処理 G)眼の構造と視覚 ①眼球の構造 ②眼球付属器 ③視覚 H)耳の構造と聴覚・平衡覚 ①耳の構造 ②聴覚 ③平衡覚 I)味覚と嗅覚 ①味覚器と味覚 ②嗅覚器と嗅覚 J)疼痛 ①痛みの分類 ②疼痛の発生機序	講義 6/9①
7	教科書p262～ p299	6－内蔵機能の調節 A)自律神経による調節 ①自律神経の機能 ②自律神経の構造 ③自律神経の神経伝達物質と受容体内蔵機能の調節 B)内分泌系による調節 ①内分泌とホルモン ②ホルモンの化学構造と作用機序 C)全身の内分泌腺と内分泌細胞 ①視床下部-下垂体系 ②甲状腺と副甲状腺 ③膵臓 ④副腎 ⑤性腺	講義 6/9②

回	事前学習	授業内容	授業方法
8	教科書p299～ p306	6ー内蔵機能の調節 D)ホルモン分泌の調整 ①神経性調節 ②物質の血中濃度による自己調節 ③促進・抑制ホルモンによる調節 ④負のフィードバック ⑤正のフィードバック E)ホルモンによる調節の実際 ①ホルモンによる糖代謝の調節 ②ホルモンによるカルシウム代謝の調節 ③ストレスとホルモン ④乳房の発達と乳汁分泌 ⑤高血圧をきたすホルモン	講義 6/16①
9	教科書p461～ p468 教科書p480～ p484 教科書p484～ p491	9ー外部環境からの防御 A)皮膚の構造と機能 ①皮膚の組織構造 ②皮膚の付属器 ③皮膚の血管と神経 ④皮膚の機能 C)代謝と運動 ①代謝とは ②運動とエネルギー D)体温とその調節 ①熱の出納 ②体温の分布と測定 ③体温調節 ④発熱 ⑤高体温と低体温	講義 6/16②
10	教科書p468～ p479	9ー外部環境からの防御 B)生体の防御機構 ①非特異的防御機構 ②特異的防御機構 ③生体防御の関連臓器	講義 6/23①
11	教科書p491～ p500	10ー生殖・発生と老化のしくみ A)男性生殖器 ①精巣(睾丸) ②精路と付属生殖腺 ③男性の外陰部 ④男性の生殖機能	講義 6/23②
12	教科書p500～ p510	10ー生殖・発生と老化のしくみ B)女性生殖器 ①卵巣 ②卵管・子宮・膣 ③外陰部と会陰 ④乳腺 ⑤女性の生殖機能	講義 6/30①
13	教科書p510～ p526	10ー生殖・発生と老化のしくみ C)受精と胎児の発生 ①生殖細胞と受精 ②初期発生と着床 ③胎児と胎盤	講義 6/30②
14	教科書p526～ p536	10ー生殖・発生と老化のしくみ D)成長と老化 ①小児期の成長 ②老化	講義 7/21①
15	プリント配布	まとめ:体の調節機構	講義 7/21②
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能 ①		

授業科目 生命維持のしくみ (物流システム) 解剖学	開講年次 1年次	開講期 前期	単位数 1	時間数 30	講師 高橋
----------------------------------	-------------	-----------	----------	-----------	----------

授業概要					
生命を維持する仕組みの中で、消化器系・呼吸器系・循環器系・腎泌尿器系の構造と機能について学ぶ。					
回	事前学習	授業内容			授業方法
1	教科書p64～ p76	2－栄養の消化と吸収 A)口・咽頭・食道の構造と機能 (1)口の構造と機能 (2)咽頭と食道の構造と機能			講義
2	教科書p76～ p95	2－栄養の消化と吸収 B)腹部消化管の構造と機能 (1)胃の構造 (2)胃の機能 (3)小腸の構造 (4)小腸の機能 (5)栄養素の消化と吸収 (6)大腸の構造 (7)大腸の機能			講義
3	教科書p96～ p105	2－栄養の消化と吸収 C)膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 (1)膵臓 (2)肝臓と胆嚢の構造 (3)肝臓の機能 D)腹膜 (1)腹膜と腸間膜 (2)腹膜と内臓の位置関係 (3)胃の周辺の間膜			講義
4	教科書p108～ p120	3－呼吸と血液のはたらき A)呼吸器の構造 (1)呼吸器の構成 (2)上気道 (3)下気道と肺 (4)胸膜・縦隔			講義
5	教科書p120～ p140	3－呼吸と血液のはたらき B)呼吸 (1)内呼吸と外呼吸 (2)呼吸器と呼吸運動 (3)呼吸気量 (4)ガス交換とガスの運搬 (5)肺の循環と血流 (6)呼吸運動の調節 (7)呼吸器系の病態生理			講義
6	教科書p141～ p155	3－呼吸と血液のはたらき C)血液 1)血液の組成と機能 2)赤血球 3)白血球 4)血小板			講義
7	教科書p156～ p165	3－呼吸と血液のはたらき C)血液 5)血漿タンパク質と赤血球沈降速度 6)血液の凝固と線維素溶解 7)血液型			講義
8	教科書p168～ p174	4－血液の循環とその調節 A)循環器系の構成 B)心臓の構造 (1)心臓の位置と外形 (2)4つの部屋と4つの弁 (3)心臓壁 (4)心臓の血管と神経			講義

回	事前学習	授業内容	授業方法
9	教科書p175～ p192	4－血液の循環とその調節 C)心臓の拍出機能 (1)心臓の興奮とその伝播 (2)心電図 (3)心臓の収縮	講義
10	教科書p193～ p196	4－血液の循環とその調節 D)末梢循環系の構造 1)血管の構造 2)肺循環の血管	講義
11	教科書p197～ p205	4－血液の循環とその調節 D)末梢循環系の構造 3)体循環の動脈 4)体循環の静脈	講義
12	教科書p206～ p228	4－血液の循環とその調節 E)血液の循環の調節 1)血圧 2)血液の循環 3)血圧・血流量の調節 4)微小循環 5)循環器系の病態生理 F)リンパとリンパ管	講義
13	教科書p232～ p248	5－体液の調節と尿の生成 A)腎臓 (1)腎臓の構造と機能 (2)糸球体の構造と機能 (3)尿細管の構造と機能 (3)傍糸球体装置 (4)クリアランスと糸球体濾過量 (5)腎臓からの生理活性物質	講義
14	教科書p248～ p252	5－体液の調節と尿の生成 B)排尿路 (1)排尿路の構造 (2)尿の貯蔵と排尿	講義
15	教科書p253～ p260	5－体液の調節と尿の生成 C)体液の調節 (1)水の出納 (2)脱水 (3)電解質の異常 (4)酸塩基平衡	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①		

授業科目 日常生活と体のしくみ (食・排泄)	開講年次 1年次	開講期 前期	単位数 1	時間数 30	講師 小川
------------------------------	-------------	-----------	----------	-----------	----------

授業概要

日常生活行動として、食べる・排泄する・動く・休む・お風呂に入る・歯を磨く・環境を整える・服を選びきる・コミュニケーションを図るといった日常の行動を解剖生理学的にとらえる。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法
1	関連する解剖生理を学習しておく	<p>食べるということ</p> <p>①食べ物を認識する(視覚・聴覚・味覚) ②食欲のメカニズム</p> <p>③食べ物を口に運ぶ ④咀嚼・嚥下</p>	講義
2	関連する解剖生理を学習しておく	<p>食べたものを吸収し栄養にする</p> <p>食道→胃→腸の順に食物はどう変化していくのか</p> <p>必要な栄養はどうやって体内に取り込まれるのか</p> <p>取り込まれた栄養は、どうやってエネルギーに変わるのか</p>	講義
3	関連する解剖生理を学習しておく		講義
4	関連する解剖生理を学習しておく	<p>水のゆくえ</p> <p>体内に取り込まれた水分は、どこで吸収され何に利用されているのか</p>	講義
5	関連する解剖生理を学習しておく	<p>老廃物の排泄</p> <p>体の中に不要なものは、体の中でどう作り出されているのか</p> <p>水に溶ける不要なものは、尿として排出され、水に溶けない不要なものは、便として排泄される</p>	講義
6	関連する解剖生理を学習しておく		講義
7	関連する解剖生理を学習しておく	<p>体内に取り込まれた空気のゆくえ</p> <p>体内に外部の空気が取り込まれるしくみ</p> <p>気体(酸素)が液体(血液)に取り込まれるしくみ</p> <p>血液から細胞に酸素が取り込まれるしくみ</p> <p>二酸化炭素が排泄されるしくみ</p> <p>人間にとって、良い空気とは、どんな空気なのか</p>	講義
8	関連する解剖生理を学習しておく		講義
9	関連する解剖生理を学習しておく	<p>血液は何を運んでいるのか</p> <p>どのようにして血液は体を巡っているのか</p> <p>血圧や脈拍が意味することは</p>	講義
10		<p>内部環境の調節</p> <p>ホメオスターシスというシステムが、なぜ人間には必要なのか</p>	講義

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法
11	関連する解剖生理を学習しておく	動作(立つ・すわる・歩く)のしくみ 人間が動くために行われていること ①重心の移動 ②バランスを保つ 立ち上がり動作 歩行	講義
12	関連する解剖生理を学習しておく	人間はなぜ、清潔にするのか 皮膚が存在する場所・粘膜が存在する場所 皮膚や粘膜の構造と機能 石けんが汚れを除去するしくみ	講義
13	関連する解剖生理を学習しておく	口のはたらき 口・口腔の構造と機能 ①咀嚼と発声 ②病原体の侵入防止 歯の構造と機能 ①噛むこと ②顔の表情・輪郭	講義
14	関連する解剖生理を学習しておく	事例を用いて、日常生活行動のしくみを理解し、日常生活行動に支障をきたした場合、どのような支援が必要となるのか考える。	グループワーク
15	関連する解剖生理を学習しておく		グループワーク
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 人体の構造と機能① 解剖生理学		

授業科目 日常生活と体のしくみ (呼吸・活動・睡眠)	開講年次 1年次	開講期 後期	単位数 1	時間数 30	講師 青木
----------------------------------	-------------	-----------	----------	-----------	----------

授業概要

日常生活行動として、食べる・排泄する・動く・休む・お風呂に入る・歯を磨く・環境を整える・服を選びきる・コミュニケーションを図るといった日常の行動を解剖生理学的にとらえる。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法
1	関連する解剖生理を学習しておく	体内に取り込まれた空気のゆくえ 体内に外部の空気が取り込まれるしくみ 気体(酸素)が液体(血液)に取り込まれるしくみ 血液から細胞に酸素が取り込まれるしくみ 二酸化炭素が排泄されるしくみ 人間にとって、良い空気とは、どんな空気なのか	講義
2	関連する解剖生理を学習しておく		講義
3	関連する解剖生理を学習しておく	血液は何を運んでいるのか どのようにして血液は体を巡っているのか 血圧や脈拍が意味することは	講義
4	関連する解剖生理を学習しておく	体の調節をつかさどるしくみ 呼吸 体温 脈拍 血圧 感覚と反射(感覚とは・反射とは何か、それらのしくみ) 人間に感覚機能が備わっている意味とは 人間胃反射機能が備わっている意味とは	講義
5	関連する解剖生理を学習しておく	動作(立つ・すわる・歩く)のしくみ 人間が動くために行われていること ①重心の移動 ②バランスを保つ 立ち上がり動作 歩行	講義
6	関連する解剖生理を学習しておく		講義
7	関連する解剖生理を学習しておく	人間にとって休息や睡眠がなぜ必要か 睡眠がもたらす効果 睡眠のメカニズム 休息と睡眠の違い	講義
8	関連する解剖生理を学習しておく		講義

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法
9	関連する解剖生理を学習しておく	人間にとって快適な環境と快適である理由 温度・湿度・光・におい・空間	講義
10	関連する解剖生理を学習しておく	人間にとって快適な環境と快適である理由 温度・湿度・光・におい・空間	講義
11	関連する解剖生理を学習しておく	人間の感覚 視覚・嗅覚・味覚・触覚・聴覚 人間の認知について 記憶・学習・形をとらえる	講義
12	関連する解剖生理を学習しておく	精神的安寧 人間のこころとは 感情の発達	講義
13	関連する解剖生理を学習しておく	事例を用いて、日常生活行動のしくみを理解し、日常生活行動に支障をきたした場合、どのような支援が必要となるのか考える。	グループワーク
14	関連する解剖生理を学習しておく		グループワーク
15	関連する解剖生理を学習しておく	人間の日常生活行動にかかわる体のしくみの意味を理解する。	まとめ グループワーク
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 人体の構造と機能① 解剖生理学		

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
生化学	1年次	前期	1	30	大江

授業概要

1. 高度に分化した細胞のかたまりである組織や臓器がそれぞれ特有の機能を発揮しているが、それを構成している生体物質はどのような構造をしているのかを学ぶ。
2. ヒトの生命活動を可能にしている生体内での物質の代謝について学ぶ。
3. ヒトの特徴である、細胞が次世代の細胞に形質を伝達できることを学ぶ。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
1	教科書を読む	生化学を学ぶための基礎知識	講義	ノートの整理
2	教科書を読む	代謝の基礎と酵素・補酵素	講義	ノートの整理
3	教科書を読む	糖質の構造と機能	講義	ノートの整理
4	教科書を読む	糖質代謝(1)	講義	ノートの整理
5	教科書を読む	糖質代謝(2)	講義	ノートの整理
6	教科書を読む	脂質の構造と機能	講義	ノートの整理
7	教科書を読む	脂質代謝	講義	ノートの整理
8	教科書を読む	タンパク質の構造と機能	講義	ノートの整理
9	教科書を読む	タンパク質代謝	講義	ノートの整理
10	教科書を読む	ポルフィリン代謝と異物代謝	講義	ノートの整理
11	教科書を読む	遺伝子と核酸	講義	ノートの整理
12	教科書を読む	遺伝子の複製・修復・組換え	講義	ノートの整理
13	教科書を読む	転写	講義	ノートの整理
14	教科書を読む	シグナル伝達	講義	ノートの整理
15	教科書を読む	がん	講義	ノートの整理
評価方法	出席、試験などで総合的に評価する。			
教科書	医学書院:系統看護学講座 生化学			

授業科目 栄養学	開講年次 1年次	開講期 前期	単位数 1	時間数 15	講師 大江
-------------	-------------	-----------	----------	-----------	----------

授業概要

ヒトにとって栄養が生命維持、成長や活動に不可欠な要素であることを学ぶ。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
1	教科書を読む	人間栄養学と看護	講義	ノートの整理
2	教科書を読む	栄養素の種類と働き	講義	ノートの整理
3	教科書を読む	食物の消化と栄養素の消化・吸収	講義	ノートの整理
4	教科書を読む	エネルギー代謝	講義	ノートの整理
5	教科書を読む	食事と食品	講義	ノートの整理
6	教科書を読む	栄養ケア・マネジメント	講義	ノートの整理
7	教科書を読む	栄養状態の評価・判定	講義	ノートの整理
8	教科書を読む	ライフステージと栄養	講義	ノートの整理
評価方法	出席、試験などで総合的に評価する。			
教科書	医学書院: 系統看護学講座 栄養学			

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
疾病の成り立ちと治療法	1年次	後期	1	15	関谷

授業概要					
何が原因で人間は病気になり、また病気が進展すると人間の体はどのような状態になるのかを理解し、病気の本質を理解する基礎を学ぶ。					
回	教科書頁	授業計画・授業内容			授業方法
1	教科書p4 ~12	1. 病理学を学ぶにための導入 病理学とは何か 医療における病理学の役割(病理解剖、病理診断) 病気の原因(内因・外因・公害病・医原病・職業病) 病気の分類と病理学の学び方			講義
2	教科書p14 ~26	2. 細胞・組織の障害と修復 1)細胞の損傷と適応 (1)損傷の原因 (2)細胞の適応現象(萎縮・肥大・過形成) (3)細胞の死 (4)細胞と組織の変性 2)組織の修復と創傷治癒 (1)組織の再生 (2)肉芽組織と瘢痕組織 (3)一次治癒と二次治癒 (4)創傷治癒に影響する因子			講義
3	教科書p28 ~48	循環障害 1)循環系の概要 (1)循環系の役割 (2)血液循環とリンパ循環 2)浮腫(水腫) 3)充血とうっ血 3)出血 4)血栓症 5)塞栓症 6)虚血 7)梗塞 8)側副循環 9)ショック 10)高血圧症 11)DIC			講義
4	教科書p50 ~74	炎症と免疫 1)炎症 (1)原因としくみと治療 (2)炎症の各型 2)免疫 (1)免疫のしくみ (2)免疫に関与する細胞 (3)液性免疫と細胞免疫 3)抗体・補体・サイトカイン アレルギーと自己免疫疾患 1)アレルギーとは 2)アレルギーのクームズ分類 3)自己免疫とは 4)自己免疫疾患 移植と再生医療 1)移植と拒絶反応 2)臓器移植 3)骨髄移植 2)再生医療			講義
5	教科書p94 ~134	代謝障害 1)脂質代謝障害 (1)肥満 (2)動脈硬化症 (3)脂肪肝 (4)脂質異常症 2)タンパク代謝障害 (1)高アンモニア血症 (2)アミロイドーシス 3)糖質代謝障害(糖尿病) 4)そのほかの代謝障害 (1)痛風 (2)黄疸			講義

回	教科書頁	授業計画・授業内容	授業方法
6	教科書p116 ～120 p124 ～128 ※120～124の 疾患は除く	先天異常 1)遺伝子と染色体 2)先天異常とは何か 遺伝子の異常と疾患 1)遺伝情報の変化(変異) 2)変異と遺伝性疾患	講義
	教科書p136 ～p151	腫瘍の定義と分類 1)腫瘍とは何か 2)腫瘍の肉眼的形態 3)腫瘍の細胞異型と構造異型 4)腫瘍の分類 悪性腫瘍の広がりと影響 1)腫瘍の増殖 2)腫瘍の浸潤 3)腫瘍の広がり	
7	教科書p151 ～p166	腫瘍の発生病理 1)腫瘍の発生機序 2)腫瘍の発生因子 腫瘍の診断と治療 1)画像診断・内視鏡診断 2)細胞診断と組織診断 3)腫瘍マーカー 4)がんの治療 腫瘍の統計	講義
8	教科書p106 ～p114	老化 1)個体の老化と老年症候群 2)加齢に伴う諸臓器の変化 個体の死 1)死の判定と死の究明(死の三徴候・死体の検案と解剖) 2)脳死と植物状態 3)尊厳死と安楽死 4)緩和医療	講義
評価方法	講義の出席日数、参加態度、提出物の提出状況・内容、事前学習・事後学習、ペーパーテスト等で総合的に評価を行う		
教科書	医学書院:系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進(1) 病理学		

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
呼吸機能の障害と治療法	1年次	後期	1	15	鎌仲

授業概要
呼吸機能の障害を症状・疾患の病態生理を学び、診断及び検査についても学ぶことで、呼吸機能の障害を持つ人の状態が把握でき、看護につなげるための基礎を学ぶ

回	教科書	授業計画・授業内容	授業方法
1	教科書(呼吸器) p20～p39	呼吸器の構造と機能 1. 呼吸器の構造 ①肺の構造 ②気管・気管支の構造 ③縦隔の構造 ④肺と胸郭・胸腔・胸膜の関係 2. 呼吸器の生理 ①呼吸調節 ②換気運動 ③ガス交換 ④酸塩基平衡	講義
2	教科書(呼吸器) p40～p68	呼吸機能障害の症状とその病態生理(発生機序・観察・治療) 1. 自覚症状 ①喀痰 ②血痰・咯血 ③咳嗽 ④胸痛 ⑤呼吸困難 2. 他覚症状 ②チアノーゼ ②ばち指 ③発熱 ④呼吸の異常 ⑤声の異常 ⑥いびき ⑦意識障害	講義
3	教科書(呼吸器) p72～p109	検査と治療・処置 1. 診察と診断の流れ 2. 検査 ①血液検査 ②喀痰検査 ③胸水検査 ④内視鏡検査 ⑤生検 ⑥画像検査(X線検査・超音波検査・MRI・PET) ⑦呼吸機能検査	講義
4	教科書(呼吸器) p109～p136	呼吸器疾患の治療・処置 1. 酸素療法 ②手術療法(肺切除術)の目的・方法 2. 人工呼吸療法(気管切開含む) 3. 胸腔ドレナージ	講義
5	教科書(呼吸器) p138～p164	疾患と診断・検査・治療法 1. 感染症 ①かぜ症候群 ②急性気管支炎 ③インフルエンザ ④肺炎 ④結核	講義
6	教科書(呼吸器) p164～p176	2. 間質性肺疾患 ①原因不明の間質性肺疾患 ②サルコイドーシス ③好酸球性肺疾患 ④過敏性肺炎 ⑤塵肺 ⑥薬剤性肺炎 ⑦放射線肺炎	講義
6	教科書(呼吸器) p176～p190	疾患と診断・検査・治療法 3. 気道疾患 ①気管支喘息 ②気管支拡張症 4. 肺血栓塞栓症 ①肺血栓塞栓症	講義
7	教科書(呼吸器) p191～p210	疾患と診断・検査・治療法 5. 呼吸不全 6. 呼吸調節に関する疾患 ①過換気症候群 ②睡眠時無呼吸症候群 7. 肺腫瘍 ①肺がん ②中皮腫	講義
8	教科書(呼吸器) p210～p220	疾患と診断・検査・治療法 8. 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 ①胸膜炎 ②自然気胸 ③縦隔腫瘍 ④横隔膜ヘルニア 9. 肺移植	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 呼吸器 メディックメディカ:病気がみえるVol. 4 呼吸器		

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
循環・造血機能の障害と治療法	1年次	後期	1	16/30	新久喜

授業概要
 循環・造血機能が障害されることで発生する症状と病態生理を理解し、循環器疾患・造血器疾患の検査・診断・治療を学ぶことで、循環・造血機能の障害を持つ人の状態を把握し、看護につなげるための基礎を学ぶ。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法		
1	循環器のしくみと働きを調べる	循環器の構造と機能 1)心臓の構造と機能 2)血管の構造と機能 3)循環の調節 循環機能障害の症状と病態生理(発生機序・観察・治療) ①胸痛 ②動機 ③呼吸困難 ④浮腫 ⑤チアノーゼ	講義		
2	教科書をよく読んでくる	循環機能障害の症状と病態生理(発生機序・観察・治療) ⑥めまい・失神 ⑦四肢の疼痛 ⑧ショック	講義		
3	教科書をよく読んでくる	検査と診断 1)診察と診断の流れ ①問診 ②視診 ③触診 ④聴診 2)検査 ①心電図 ②胸部X線検査 ③心エコー ④脈波検査 ⑤心臓カテーテル法 ⑥血行動態モニタリング	講義		
4	教科書をよく読んでくる	検査 ⑦心臓核医学検査(シンチグラフィ) ⑧コンピュータ断層撮影(CT) ⑨磁気共鳴画像法(MRI) 治療 1)内科的治療 (1)薬物療法の基本 (2)経皮的冠状動脈インターベンション(PCI) (3)ペースメーカー治療	講義		
5	教科書をよく読んでくる	治療 2)外科的治療 (1)心臓手術の周術期管理 ①人工心肺による体外循環 ②呼吸・循環・腎機能の管理 (2)手術療法 ①冠状動脈バイパス手術(CABGとOPCAB) (3)弁膜症に対する手術(置換術と形成術) (4)大血管再建術 (5)血栓除去術 (6)補助循環装置	講義		
6	教科書をよく読んでくる	心臓の疾患の病態と診断・治療 1)虚血性心疾患(狭心症・急性冠症候群) 2)心筋疾患(肥大型心筋症・拡張型心筋症) 3)心不全(急性心不全・慢性心不全)	講義		
7	教科書をよく読んでくる	心臓の疾患の病態と診断・治療 4)心タンポナーデ 5)不整脈 ①上室性頻脈性不整脈 ②心室性頻脈性不整脈 ③徐脈性不整脈 6)炎症性疾患(感染性心内膜炎・心筋炎・収縮性心膜炎)	講義		
8	教科書をよく読んでくる	血管系の疾患の病態と診断・治療 1)大動脈瘤・大動脈解離 2)閉塞性動脈硬化症 3)挫滅症候群 4)下肢静脈瘤・深部静脈血栓症 血圧異常の疾患の病態と診断・治療 1)動脈硬化症 2)本態性高血圧 3)二次性高血圧 4)起立性低血圧	講義		
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。				
教科書	医学書院:系統看護学講座 循環器 メディックメディカ:病気がみえるVol. 2 循環器				

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
循環・造血機能の障害と治療法	1年次	後期	1	14/30	新井

授業概要					
循環・造血機能が障害されることで発生する症状と病態生理を理解し、循環器疾患・造血器疾患の検査・診断・治療を学ぶことで、循環・造血機能の障害を持つ人の状態を把握し、看護につなげるための基礎を学ぶ。					
	事前学習	授業計画・授業内容			授業方法
	血液のしくみと働きを調べる	血液の成分と機能 1)血球の成分と機能 2)止血機構と線溶 3)免疫応答 造血のしくみ 1)造血の3要素 2)血液細胞の分化 血球異常に基づく症状や身体所見 1)貧血(赤血球の異常) 2)感染にともなう発熱(白血球の異常) 3)出血傾向(血小板の異常) 4)リンパ節腫脹・脾腫	講義		
	教科書をよく読んでくる	検査 1)末梢血検査 2)骨髄穿刺・骨髄生検 3)出血傾向検査 4)リンパ節生検 5)細胞表面腫瘍マーカー検査 6)染色体検査 7)遺伝子検査	講義		
11	教科書をよく読んでくる	症候とその病態生理 1)貧血 2)白血球増加症 3)白血球減少症 4)脾腫 5)リンパ節腫脹 6)出血性素因	講義		
12	教科書をよく読んでくる	疾患と治療の理解 1)赤血球系の異常 (1)鉄欠乏性貧血 (2)巨赤芽球性貧血 (3)溶血性貧血 (4)再生不良性貧血 (5)二次性貧血	講義		
13	教科書をよく読んでくる	疾患と治療の理解 2)造血器腫瘍 (1)造血器腫瘍とは (2)造血器腫瘍の分類 (3)造血器腫瘍治療 ①化学療法 ②支持療法 ③造血幹細胞移植 ④分化誘導療法 ⑤分子標的療法 ⑥遺伝子治療	講義		
14	教科書をよく読んでくる	疾患と治療の理解 2)造血器腫瘍 (4)急性白血病 (5)骨髄異形成症候群 (6)慢性骨髄性白血病 (7)慢性リンパ性白血病 (8)悪性リンパ腫 (9)多発性骨髄腫	講義		
15	教科書をよく読んでくる	3)出血性疾患 (1)血小板異常による出血性疾患 ①血栓性血小板減少性紫斑病[TTP] ②特発性血小板減少性紫斑病[ITP] (2)凝固異常による出血性疾患 ①血友病 ②播種性血管内凝固症候群	講義		
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。				
教科書	医学書院:系統看護学講座 血液・造血器				

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
栄養摂取・消化機能の障害と治療法	1年次	後期	1	20/30	志田 他

授業概要
 栄養摂取・消化機能が障害されることで発生する症状と病態生理を理解し、消化器疾患の検査・診断・治療を学ぶことで、栄養摂取・消化機能の障害を持つ人の状態を把握し、看護につなげるための基礎を学ぶ。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法
1	教科書p20～43 教科書p46～70	消化器系の構造と機能(解剖生理) 1)食道の構造と機能 2)胃・十二指腸の構造と機能 3)肝臓の構造と機能 症状と病態生理 1)嚥下困難 2)おくび・胸やけ 3)吐き気・嘔吐 4)腹痛 5)吐血・下血 6)下痢 7)便秘 8)腹部膨満 9)腹水 10)黄疸 11)意識障害(肝性脳症)	講義
2	教科書p72～115	検査と治療 1)診察と診断の流れ (1)視診 (2)聴診 (3)打診 (4)触診 (5)直腸指診 2)検査 (1)糞便検査 (2)肝機能検査 (3)栄養状態のアセスメント (4)膵外分泌機能検査 (5)超音波検査 (6)内視鏡検査 (7)肝生検 (8)放射線検査 (9)X線コンピュータ断層像(CT) (10)磁気共鳴画像(MRI) (11)肝シンチグラフィ (12)陽電子放射断層撮影(PET)	講義
3	教科書p115～127	3)治療 (1)消化器疾患における薬物療法の適応と治療の効果 ①消化管運動を抑制する薬物 ②消化管運動を促進する薬物 ③酸分泌を抑制する薬物 ④肝炎に用いる薬物 ⑤化学療法に用いる薬物	講義
4	教科書p127～139	3)治療 (2)消化器疾患における栄養療法・食事療法の適応と効果 ①嚥下障害 ②消化管手術 ③炎症性腸疾患 ④肝疾患 ⑤胆嚢疾患 (3)消化器疾患における放射線療法の適応と効果	講義
5	教科書p142～172	疾患の理解 1)食道の疾患 (1)食道アカラシア (2)胃食道逆流症 2)胃・十二指腸疾患 (1)機能性ディスペプシア(機能性胃腸症) (2)胃炎 (3)胃・十二指腸潰瘍	講義
6	教科書p173～208	疾患の理解 3)腸および腹膜疾患 (1)過敏性腸症候群 (2)腸炎(潰瘍性大腸炎・クローン病) (3)腹膜炎 (4)虫垂炎 (5)イレウス(腸閉塞症) (6)消化管憩室 (7)腸管ポリープ・ポリポーシス (8)痔核	講義

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法
7	教科書p209～ 241	疾患の理解 1)肝臓の疾患 (1)肝炎(急性肝炎[A型肝炎・B型肝炎・C型肝炎]・慢性肝炎) (2)アルコール性肝障害 (3)脂肪肝 (4)肝硬変症 (5)肝不全	講義
8			講義
9	教科書p246～ 265	疾患の理解 2)胆嚢の疾患 (1)胆石症 (2)急性胆嚢炎・胆管炎 3)膵臓の疾患 (1)膵炎(急性膵炎・慢性膵炎)	講義
10	教科書p246～ 265	疾患と診断・検査・外科的治療法 1. 胆汁代謝・排泄の障害 ①胆石 ②総胆管結石	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 成人看護学⑤ 消化器 メディックメディア:病気がみえる 消化器		

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
栄養摂取・消化機能の障害と治療法	1年次	後期	1	10/30	齊藤

授業概要
 栄養摂取・消化機能が障害されることで発生する症状と病態生理を理解し、消化器疾患の検査・診断・治療を学ぶことで、栄養摂取・消化機能の障害を持つ人の状態を把握し、看護につなげるための基礎を学ぶ。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法
1	教科書p6～17 教科書	3)消化器疾患における手術療法の適応と効果 (1)手術療法とは・外科的診断学 (2)手術を必要とする疾患 (3)手術手技 ①開胸開腹手術 ②顕微鏡下手術 ③内視鏡下手術 (4)手術管理 ①術前・術中・術後管理 ②ドレーン管理 ③術後合併症	講義
2	食道・胃のしくみ と働きを調べる	消化器がんの病理・病型分類と診断・治療 1)食道がん 2)胃がん 3)結腸がん・直腸がん	講義
3	食道・胃のしくみ と働きを調べる	消化器がんの病理・病型分類と診断・治療 4)胆管がん 5)胆嚢がん 6)膵臓がん	講義
4	食道・胃のしくみ と働きを調べる	疾患をもつ患者の看護 1)胃・十二指腸潰瘍患者 2)胃がん患者 3)イレウス患者	講義
5	食道・胃のしくみ と働きを調べる	疾患をもつ患者の看護 4)肝硬変患者 5)胆嚢炎患者 6)ストーマ造設患者	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 成人看護学⑤ 消化器 メディックメディア:病気がみえる 消化器		

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
運動機能の障害と治療法	1年次	後期	1	15	鈴木

授業概要					
運動機能の障害を症状・疾患の病態生理を学び、診断及び検査についても学ぶことで、運動機能の障害を持つ人の状態が把握でき、看護につなげるための基礎を学ぶ					
回	教科書	授業計画・授業内容			授業方法
1	教科書 p20～p41	運動器の構造と機能 ①骨 ②関節 ③神経と筋肉			講義
2	教科書 p44～p60	症状とその病態 (1)疼痛 (2)形態の異常 (3)関節運動の異常 (4)神経の障害 (5)異常歩行または跛行 (6)筋肉の障害			講義
3	教科書 p62～p71	診察・診断の流れ 問診・視診・触診 ①肢位または姿勢 ②長さ ③周径 ④関節可動域 ⑤筋力 検査 ①X線検査 ②MRI ③超音波検査 ④造影検査 ⑤血管撮影検査 ⑥シンテグラフィー ⑦骨密度の測定 ⑧筋電図 ⑨関節鏡検査 ⑩関節液検査 ⑪膝蓋骨跳動試験			講義
4	教科書 p71～p83	治療・処置 1)保存療法 ①ギプス ②絆創膏包帯法 ③副子法 ④牽引 ⑤関節穿刺法 2)理学療法と作業療法 3)手術療法 4)義肢と装具			講義
5	教科書 p86～p121	疾患と診断・検査・治療法 (1)骨折 (2)脱臼 (3)捻挫および打撲 (4)筋・腱・靭帯などの損傷			講義
6	教科書 p122～p157	疾患と診断・検査・治療法 (1)骨・関節の炎症性疾患 (2)骨腫瘍および軟部腫瘍 (3)代謝性骨疾患 (4)筋および腱の疾患			講義
7	教科書 p158～p175	疾患と診断・検査・治療法 (1)神経の疾患 (2)上肢および上肢帯の疾患 (3)脊椎の疾患			講義
8	教科書 p177～p185	疾患と診断・検査・治療法 (1)下肢および下肢帯の疾患 (2)ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 (3)廃用症候群			講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。				
教科書	医学書院:系統看護学講座 運動器				

授業科目 脳神経・感覚機能の障害と治療法 (脳神経)	開講期 1年次	開講年次 後期	単位数 1	時間数 12/30	講師 草鹿
----------------------------------	------------	------------	----------	--------------	----------

授業概要

脳神経・感覚機能が障害されることで発生する症状と病態生理を理解し、脳神経疾患・感覚器疾患(眼・耳鼻咽喉)の検査・診断・治療を学ぶことで、脳神経・感覚機能の障害を持つ人の状態を把握し、看護につなげるための基礎を学ぶ。

回	事前学習	授業内容	授業方法
1	脳の構造と機能の復習	1. 症状とその病態生理 1) 脳・神経障害とは 2) おもな症状とその病態生理	講義
2	教科書を読み予習する	2. 検査・診断と治療・処置 1) 診断と診療の流れ 2) 検査 3) 治療・処置	講義
3	教科書を読み予習する	2. 検査・診断と治療・処置 1) 診断と診療の流れ 2) 検査 3) 治療・処置	講義
4	教科書を読み予習する	3. 中枢神経系の疾患と診断・検査・治療法 1) 脳血管障害(脳出血・脳梗塞) 2) 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア	講義
5	教科書を読み予習する	3. 中枢神経系の疾患と診断・検査・治療法 3) 脱髄・変性疾患(多発性硬化症・パーキンソン病) 4) 脳神経系の感染症	講義
6	教科書を読み予習する	3. 中枢神経系の疾患と診断・検査・治療法 5) 腫瘍(脳・脊髄腫瘍) 6) 認知症 4. 末梢神経系の疾患	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。 脳神経感覚機能の障害と治療法の眼・耳鼻咽喉の授業と合算して100点の試験となる。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 成人看護学(7) 脳・神経 メディックメディア:病気がみえるvol. 7 脳・神経		

授業科目 脳神経・感覚機能の障害と治療法 (眼)	開講期 1年次	開講年次 後期	単位数 1	時間数 10/30	講師 宮本
--------------------------------	------------	------------	----------	--------------	----------

授業概要

脳神経・感覚機能が障害されることで発生する症状と病態生理を理解し、脳神経疾患・感覚器疾患(眼・耳鼻咽喉)の検査・診断・治療を学ぶことで、脳神経・感覚機能の障害を持つ人の状態を把握し、看護につなげるための基礎を学ぶ。

回	事前学習	授業内容	授業方法
7	眼の構造と機能の復習	1. 症状とその病態生理 1) 視機能に関連した症状 ①視力障害 ②視野異常 ③色覚異常 ④眼精疲労 ⑤飛蚊症	講義
8	教科書を読み予習する	1. 症状とその病態生理 2) 視機能に関連しない症状 ①充血 ②流涙 ③眼脂 ④異物感・掻痒感 ⑤眼痛 ⑥眼球突出	講義
9	教科書を読み予習する	2. 検査・診断と治療・処置 1) 診断と診療の流れ 2) 検査 3) 治療・処置	講義
10	教科書を読み予習する	3. 感覚器(眼)の疾患 1) 眼瞼・結膜・角膜の疾患 2) 網膜・硝子体の疾患	講義
11	教科書を読み予習する	3. 感覚器(眼)の疾患 3) 水晶体の疾患(白内障)・緑内障 4) 眼球・眼窩の疾患 5) 視神経の疾患	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。脳神経感覚機能の障害と治療法の脳神経・耳鼻咽喉の授業と合算して100点の試験となる。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 成人看護学(13) 眼		

授業科目 脳神経・感覚機能の障害と治療法 (耳鼻咽喉)	開講期 1年次	開講年次 後期	単位数 1	時間数 8/30	講師 関谷
-----------------------------------	------------	------------	----------	-------------	----------

授業概要

脳神経・感覚機能が障害されることで発生する症状と病態生理を理解し、脳神経疾患・感覚器疾患(眼・耳鼻咽喉)の検査・診断・治療を学ぶことで、脳神経・感覚機能の障害を持つ人の状態を把握し、看護につなげるための基礎を学ぶ。

回	教科書頁	授業内容	授業方法
1	教科書P45 ～P54	1. 症状とその病態生理 1) 耳にあらわれる症状と病態生理 2) 鼻にあらわれる症状と病態生理 3) 口腔、唾液腺、咽頭にあらわれる症状と病態生理 4) 喉頭にあらわれる症状と病態生理	講義
2	教科書P56 ～P100	2. 検査・診断と治療・処置 1) 診断と診療の流れ 2) 検査 3) 治療・処置	講義
3	教科書P102 ～P144	3. 耳の疾患 1) 外耳・中耳・内耳の疾患(炎症) 2) 後迷路性疾患(メニエール症・難聴) 4. 鼻の疾患 1) 鼻腔・副鼻腔(炎症)	講義
4	教科書P144 ～P172	5. 口腔・咽喉頭の疾患 1) 口腔疾患(炎症・腫瘍・味覚障害) 2) 咽頭疾患(炎症・がん) 3) 喉頭疾患(炎症・ポリープ・がん)	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。 脳神経感覚機能の障害と治療法の脳神経・眼の授業と合算して100点の試験となる。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 成人看護学(14) 耳鼻咽喉		

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
感染・免疫防御機能の障害と治療法	1年次	後期	1	14/30	三浦

授業概要					
感染および免疫防御機能の障害における病態生理と症状を学ぶとともに、疾病を診断する主な検査・治療方法を学ぶ					
回	事前学習	授業計画・授業内容			授業方法
1	教科書p4 ~66	1. 微生物とは何か 1)微生物の種類と特徴 2)微生物の役割(人間と微生物) 2. 微生物学の歩み 3. 微生物の性質 (1)細菌の性質 (2)真菌の性質 (3)原虫の性質 (4)ウイルスの性質			講義
2	教科書p70 ~130	1. 感染と感染症 1)微生物感染の機構 (1)感染とは何か (2)生体(宿主)と病原体(感染源) 2)感染の成立から発症・治癒まで (1)病原体の侵入と感染経路 (2)侵入から発症まで (3)発症後の経過 3)微生物感染の機構 (1)細菌の機構 (2)真菌の機構 (3)原虫の機構 (4)ウイルスの機構 2. 感染に対する生体防御機構 1)自然免疫のしくみ 2)獲得免疫のしくみ 3)粘膜免疫のしくみ 4)感染の徴候と症状			講義
3	教科書p134 ~168	1. 感染源・感染経路からみた感染症 1)経口感染 2)経気感染 3)接触感染 4)経皮感染 5)母児感染 2. 滅菌と消毒 1)バイオハザードとバイオセーフティ 2)滅菌消毒の意義と定義 3)滅菌法 4)濾過除菌 5)消毒と消毒薬 3. 感染症の検査と診断 1)病原体を検出する方法 (1)分離培養と形態学的検査 (2)遺伝学的検査 (3)病原体抗原検査法 2)生体の反応から診断する方法 (1)抗体検査(血清診断) (2)細胞性免疫による診断			講義
4	教科書p170 ~214	1. 感染症の治療 1)化学療法とはどういうものか 2)化学療法薬 (1)抗細菌薬 (2)抗真菌薬 (3)抗原虫薬 (4)抗ウイルス薬 2. 感染症の現状と対策 1)感染症の変遷 2)感染症の現状と問題点 3)感染症への対策			講義
5		1. 病原細菌と細菌感染症			講義
6		1. 病原真菌と真菌感染症 2. 病原原虫と原虫感染症			講義
7		1. 病原ウイルスとウイルス感染症 1)DNAウイルス 2)RNAウイルス 3)ウイルスの臨床的分類			講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。				
教科書	医学書院:系統看護学講座 微生物学				

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
感染・免疫防御機能の障害と治療法	1年次	後期	1	8/30	関谷

授業概要

感染および免疫防御機能の障害における病態生理と症状を学ぶとともに、疾病を診断する主な検査・治療方法を学ぶ

回	教科書	授業計画・授業内容	授業方法
1	教科書p116 ～117 教科書p122 ～p147	1. 膠原病とは何か 2. 自己免疫疾患とその機序 (1)自己と非自己の区別 (2)免疫トランス (3)自己免疫疾患の病態 3. 症状とその病態生理 (1)関節痛・関節炎 (2)レイノー現象 (3)皮膚・粘膜症状 (3)発熱 (4)タンパク尿 (5)筋力低下 (6)血管に伴う症状 4. 検査と治療 (1)診察までの流れ (2)検査 (3)治療法	講義
2	教科書150 ～175	自己免疫疾患の理解(検査・診断・治療) (1)全身性エリテマトーデス (2)関節リウマチ (3)全身性強皮症 (4)シェーグレン症候群 (5)ベーチェット病	講義
3	教科書p307 ～308 教科書p313 ～318	感染症 疾患の理解 (1)蜂巣炎(蜂窩織炎) (2)壊死性筋膜炎 (3)表在性血栓性静脈炎 (4)悪性腫瘍に関係する免疫不全と感染症 (5)菌血症・敗血症 免疫のしくみとアレルギー (1)免疫反応と疾患 (2)免疫担当物質と伝達物質 (3)アレルギーのしくみ	講義
4	教科書p16 ～38 教科書p45 ～48 教科書p51 ～54	アレルギー疾患の診断・検査・治療 (1)診察の流れ (2)検査 (3)治療 アレルギー性疾患 (1)アナフィラキシー (2)薬物アレルギー (3)ラテックスアレルギー	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 アレルギー 膠原病 感染症		

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
感染・免疫防御機能の障害と治療法	1年次	後期	1	8/30	佐々木

授業概要					
感染および免疫防御機能の障害における病態生理と症状を学ぶとともに、疾病を診断する主な検査・治療方法を学ぶ					
回	事前学習	授業計画・授業内容			授業方法
1		膠原病患者の看護 1)症状の経過と看護(急性期・回復期・慢性期・継続看護) 2)症状に対する看護 (関節痛・発熱・皮膚,粘膜症状・レイノー現象) 3)治療を受ける患者の看護(薬物療法・手術療法)			講義
2		疾患を持つ患者の看護 (1)関節リウマチ患者の看護 (2)全身性エリテマトーデス患者の看護 (3)全身性強皮症患者の看護 (4)シェーグレン症患者の看護 (5)ベーチェット病患者の看護			講義
3		感染疾患患者の看護 1)感染予防 (スタンダードプリコーション・予防策と隔離法・洗浄,消毒,滅菌・予防接種とワクチン) 2)症状に対する看護(発熱・発疹・下痢)			講義
4		検査・治療における看護 1)検体採取時の看護 2)抗菌薬投与中の看護 疾患を持つ患者の看護 1)エイズ患者の病気に応じた看護 2)敗血症患者の看護			講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。				
教科書	医学書院:系統看護学講座 アレルギー 膠原病 感染症				

授業科目 臨床薬理学	開講年次 1年次	開講期 後期	単位数 1	時間数 30	講師 堂前
---------------	-------------	-----------	----------	-----------	----------

授業概要
薬理作用の基礎知識に基づき、生体機能の正常機能と病態について理解し、治療薬の作用を説明できるように学習する

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
1	教科書を読み予習する	薬理学総論 薬はどのように作用するのか	講義	
2	教科書を読み予習する	薬物の体内動態 薬効に影響する因子、薬物中毒	講義	
3	教科書を読み予習する	抗アレルギー薬、抗炎症薬	講義	
4	教科書を読み予習する	神経系と薬物治療薬 末梢・中枢神経	講義	
5	教科書を読み予習する	自律神経系の治療薬	講義	血圧と心臓の働きを調整する生体内物質と薬物についてレポート
6	教科書を読み予習する	交感神経と血圧・心臓作用薬	講義	
7	教科書を読み予習する	交感神経と血圧・心臓作用薬	講義	
8	教科書を読み予習する	利尿薬と抗血液凝固 血液に作用する薬	講義	
9	教科書を読み予習する	副交感神経の治療薬	講義	
10	教科書を読み予習する	消化器と呼吸器治療薬	講義	
11	教科書を読み予習する	ホルモン作用薬 糖尿病、骨粗しょう症	講義	
12	教科書を読み予習する	中枢神経作用薬 睡眠薬、統合失調症、パーキンソン病	講義	
13	教科書を読み予習する	抗うつ、抗てんかん、麻酔鎮痛薬	講義	
14	教科書を読み予習する	感染症と癌治療薬	講義	
15	教科書を読み予習する	免疫治療薬と消毒薬	講義	
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。			
教科書	メヂカルフレンド社：新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進③ 薬理学 メディカ出版：ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち(2) 臨床薬理学			